

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真で紹介いたします。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：ダグリ岬から望む枇榔島】

さつま狂句 (有明町さつま狂句同好会)

兼題 「曲尺」 決定ってたてそいで良かやち 曲尺 丸目南兵衛

(評) グループだろうか郷中だろうか。衆議一決、「これで一件落着」といわずもがな。そこに後方座席から声が掛かった。「今になって念を押す」ような発言に、司会者の苛立たしい心境がにじむ。

兼題 「造作」 顔もじゃが 心中ん造作の 良か嫁御 小蓬原忠則

(評) 造作とは「つくること・家を建てること・顔つき」など広い意味を持つ。そこで「顔つき」の良さは勿論、加えて心中のつくりまで良いお嫁さんに恵まれた。素晴らしい滑稽味が伝わってくる。

兼題 「農業」 小畝町くぼ 一緒に束げつ 機械化農業 畑山 敏昭

(評) かつての牛馬耕は戦後、カルチャや耕耘機に変わり、農作業は機械化へと発展。また小さい区画の畑が、構造改善と銘打った最新式の水管理の圃場に変身し、終始大型機械の稼働で収穫を待つ。

短歌 (松山南船短歌会)

バス停にポツンとひとりたたしめて車ひしめく春のあし音 畑 美佐子  
荒れ庭を花で満たそう夢すこし叶へて吾娘の帰るを待たむ 前原 恭  
花散りて若葉となりし梅の枝蓑虫一つブランコ漕ぎいる 永田ミツエ  
夕映えが少しづつ移動茶の間より軒先にあそぶおしどり雀 隈元 チエ  
チューリップ咲きつつ茎の伸びてゆく三月のぬき陽ざしをあびて 野口 順子  
ふるさとの庭に咲きたる七色のつつじの花に心寄りゆく 石橋 道子  
川岸に風を流れて鯉のぼり並びならびて百五十四 川添八重子  
雨上り雲海たなびく霧島の谷間谷間に朝日差し込む 吉元ミチ子  
したたかに生きねばならん雑草は抜かれし時も土をたずさえ 中島 昭  
卒業の様子見たさに夫と行く孫は含羞みそつとVサイン 大迫 鈴子  
桜苗二本求めて庭に植ゆ咲く日を願ひ葉っぱに触れる 山口 カツ  
群青のきらきら光る風を背に陽は沈みゆくすべてをつつみ 藤田ミチ子  
子の名呼ぶ一人二人三人目行きつかぬ間に用件忘れ 池田 奈々  
「いってきます」一歩踏み出た足戻しコート羽織りぬ花冷えの朝 高倉 律子

俳句 (ぎんなん俳句会)

滴りの梵字を濡らす静寂かな 富山 達次  
空壕をくまなく埋めて夏落葉 富山 茂子  
わた雲に翅ひろげゆく梅雨の蝶 和田千恵子  
見上ぐれば一輪の朴女学生 北野 治美  
水張って優しく洗ふ子の浴衣 吉村 万里  
出目金の太き目玉に見られをり 永吉佐代子  
片陰の箆を日向へ移しけり 目黒 文恵  
梅雨深し弥生の土器を洗い上げ 本村 光子  
燕の子スローカーブで横切りぬ 北川 雨水  
梅雨明けて多忙の腕をひと休み 刀坂由美子  
祝い鯨若き日の母単衣着て 堂園 悦子  
嬰兒に幸多かれと天の川 今井 洋子  
風吹けば風と語りて風知草 川上 豊  
装束を風ひるがへす夏越かな 和田 洋文

富山 達次  
富山 茂子  
和田千恵子  
北野 治美  
吉村 万里  
永吉佐代子  
目黒 文恵  
本村 光子  
北川 雨水  
刀坂由美子  
堂園 悦子  
今井 洋子  
川上 豊  
和田 洋文

文芸

Japanese Poem of 31 syllables  
\*Haiku Poem\*Comic Haiku\*